

ずいそう

会津をたずねて

佐藤孝文



昨年、あるシンポジウムに参加の機会を得、会津若松市を訪れました。会津と言えば国内最後の戦いとなった戊辰戦争を思い出しますが、私も『白虎隊』の墓に詣でた後、幼い命を散らした彼等を育んだ藩校『日新館』にも赴き会津藩の幼年・青年教育の背景について興味深く見学して参りました。

山間で地形的にも気候にも恵まれない会津藩は、人材を育成する以外に、度重なる飢饉を乗り越え雄藩と伍していく手段がないことを早くから認識し、遊びかたから礼儀作法、学問はもとより水練場（プール）や天文台のような専門的な施設も完備させ、現在の小学校から大学までの一貫教育とも言える学問所を作り上げました。全国に数ある藩校の中でもこの日新館は屈指の教育機関であったと言えます。

日新館に入学前の幼い子供たちには、『什の掟』と呼ばれる七つの戒めがありました。

- 一、年長者〔としうえのひと〕の言うことに背〔そむ〕いてはなりません
- 二、年長者にはお辞儀〔じぎ〕をしなければなりません
- 三、嘘言〔うそ〕を言うことはなりません
- 四、卑怯〔ひきょう〕な振舞〔ふるまい〕をしてはなりません
- 五、弱い者をいぢめてはなりません
- 六、戸外で物を食べてはなりません
- 七、戸外で婦人〔おんな〕と言葉を交〔まじ〕えてはなりません
ならぬことはならぬものです。

現代の教育に取り入れるには、時代錯誤の一面もありますが、改めて教えること、学ぶことの基本がそこにはあると思うのです。

自戒も含め今節の技術者の姿をみていると、仕事に対しての強い意志が感じられないことが多々あります。己の仕事の正当性を守るがために、技術基準や設計要領のみ重視し、己の独創性を発揮せんとする姿勢が脆弱になったと感じております。

建築物の耐震偽装が問題になっている昨今において

は、法令遵守が大前提であることは論を俟ちませんが、さらにその先に存在する顧客にとってより良い商品を提供する強い信念と意志が必要だと思います。

しかし、その意志を育てる、つまりはその意志を持った人材を育てるのは、まさに教育の力に外ならないのではないのでしょうか。近頃の若者について、嘆いているばかりでは何の解決にもなりません。

私は今、かつての藩校のような志ある学舎が現代に復活出来ないのかとひそかに考えております。国や県市町村の公の機関でそれが出来ないなら、ひとまずは私塾でもいい。想いを同じくする者たちで資金を出し、志ある人間が志ある人間を育てる場を創ることが出来たら、どれほど未来は明るいでしょう。

学生時代に私はラグビー部に所属し、土にまみれながら毎日ボールを追いかけておりました。怪我は付き物でしたし、毎回体力の限界まで追い込む、それは何より厳しい練習で、部員全員で泣きながらスクラムを組むことも少なくありませんでした。あれほど厳しい鍛錬は、今後どんな場面においても体験することは無いと思っている程です。今も青少年ラグビーの世話役をしており、青臭い思いながら自分が今こうして立っているのは、まさにあの頃培った精神に依るものだと確信しています。

加えて、私の五十才という年齢、働き盛りでの命に関わるような大病をした過去の経験が起因しているのかも知れませんが、自分の事業とは別に社会や未来に微力ながら貢献出来ることはないかと真剣に考える近頃となりました。

実業の世界ではまだまだ若輩者でありますし、自分の事業で汲々と日々の実務に追い回される毎日ですが、このような志を抱き仕事に取り組めることが嬉しく、励みになっております。

『それ学問は心の汚れを清め、身の行いを良くするを以って本実となす。』中江藤樹

これは若者だけに向けた言葉ではない、と私は思っています。